

令和元年度 リンデンホールスクール中高学部 教育課程特例校自己評価

本年度は、SDGs に着目し、環境教育・英語イマージョン教育の両面に関する活動に取り組んだ。その概要について主立った内容を以下に列挙する。

1 アートマイル国際共同学習プロジェクト

(フィンランド国クオッパヌンミ中等教育学校との協業)

○校内ポスターセッションの実施

○進捗状況

1. 以下のことについて SkypeMeeting を 11 回実施 (9 月～12 月)

活動内容テーマの決定「Life Below Water」(海の豊かさを守ろう)

サブテーマ(プラスチック汚染を防ぎみんなの手で豊かな海を取り戻す。)

テーマについての調査の相互発表

計画案の作成と意見交換

原画案の作成と意見交換

構図についての意見交換

作画担当割の決定

配色の決定

キャンバスの下絵描きについて

キャンバスへの着色について

作画完了と発送(12 月)

資料(写真)

2 “届けよう服のチカラ”(ユニクロ)プロジェクト

(派遣講師による校内研修会)

リンデン祭での保護者生徒への呼びかけ

リサイクル衣料の回収と発送

回収衣料数は 1121 点

3 SDGs ワークショップ

生徒に対し SDGs とは何かを理解させるために

生徒の保護者でもあるキャリア教育コーディネータの石橋輝政氏から

複数回にわたり実施いただいた。

- 4 ESD Field Trip 1
学校周辺、特に二日市の各所を訪問
石穴神社(地域歴史文化教育)、里山(生物多様性)、太宰府市役所(都市計画)
- 5 糸島海岸清掃活動
前期課程生徒により実施した。
- 6 EU があなたの学校へやってくる
講師 ベルギー王国在日大使館 経済部長兼一等書記官
ブレント・バン・ラッセル氏による講話
- 7 後期課程生徒によるフィジー研修旅行
IB の CAS プロジェクト実施を SDGs の観点から理解し実施
- 8 ESD Field Trip 2
学校周辺を訪問
太宰府天満宮、坂本八幡宮、太宰府政庁跡、観世音寺
- 9 GPSA(Global Public Service Academy) for Health
タイ・メイソットで実施されているジョンズ・ホプキンス大学の医療事業に参加

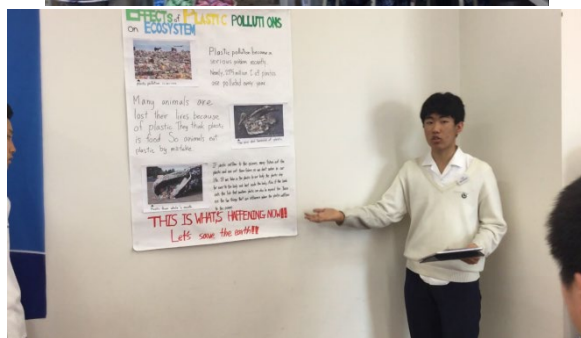
【自己評価】

1 アートマイル国際協働学習プロジェクト

1.) 経過

本校は令和元年度、アートマイル国際協働学習プロジェクトに参加し、主に SDGs の Goal 14 “Life Below Water” をテーマに海洋プラスチックごみ問題についてフィンランドの Kuoppanummi Koulukesku と合同で活動を行いました。

本校は 8 年生(中学 2 年生)が中心となって「現状のプラスチックゴミの処理」「生態系への影響」「自国のゴミ削減への取り組み」「国際社会の取り組みや法律」の 4 つについて各班で調べ、ポスターを作成しました。生徒たちは調べた内容をたった 1 枚の紙にまとめることに苦労したようですが、良いポスターを作ることができました。



SDGs について全校生徒に関心と理解を持ってもらうため、9/17、9/18 の2日間で校内でのポスターセッションを行いました。決められた時間で簡潔かつ分かりやすく話をするのは生徒には難しかったようです。原稿を見るのに集中するあまり俯きがちになる場面もありました。生徒もあまりうまく出来なかったと感じたようで、1日目の後で自主練に励む姿も見られました。

Kuoppanummi Koulukesku の生徒たちと Skype を用いたオンラインでのポスターセッションを行いました。日ごろの英語イメージ教育の効果もあり、英語を用いて十分な意見交換をすることが出来ました。



11月に入り、いよいよ壁画の共同制作に取り掛かりました。スケジュール的にかなり厳しい状況に陥っていましたが、生徒たちは自主的にスケジュールを立てて、制作を進めました。当時フィンランドでは郵送網の麻痺などの問題が発生していましたが、なんとか期日までに壁画を届けることができました。生徒たちは絵を描くのを楽しんだようでした。

2020年2月5日 完成した絵とともに



2.) 評価

生徒は不慣れな作業が続いたことがかなり負担になったようで、特に目標を明確にして長期的なスケジュールを立てることに困難を感じたようでしたが、最終的には教員の助けを借りずに適切なスケジュールを立て、期日までに作業を完了させられるようになりました。本校は日頃から **Environmental Studies** の授業を実施しており、環境問題について学習が行われてはいますが、現実的な解決策となると技術的、経済的、外交的な問題とのコンフリクトによって理想的な解決は難しいことに気づくことが出来たようです。英語を用いたコミュニケーションに関しては日頃の成果を十分に発揮することができました。生徒たちは日本語を用いたときと比べても遜色なく意見を発し議論を行うことが出来ました。

ポスターの作成やプレゼンテーションスキルに関しても、まだまだ未熟な点が目立ちました。本校は日頃から授業内で多くのポスター作成や発表を行っていますが、指導の改善が必要であると感じさせられました。また指導教員が複数いたにも関わらず、認識の共有が不十分な面が行われなかったために混乱を招いたこともありました。

2 “届けよう、服のチカラ” プロジェクト

1.) 経過

9年生・10年生 2019年11月6日(水)(第一回)
2019年11月13日(水)(第二回)

内容：

第一回 「笑って学ぶSDGs」

「笑って学ぶSDGs」では、SDGsの公認ファシリテーターである石橋輝政様(笑下村塾)に講師としてお招きし、SDGsについて講演をしていただきました。講演の中では、生徒たちにSDGsに関心を持ってもらうために、SDGsの17の目標を大喜利のクイズ形式で学習しました。また、SDGsに関連して、実際に行われている環境保全や地方自治体の活性化などの活動についての動画を視聴し、生徒たちはSDGsについてさらに理解を深めました。また、最後にはSDGsババ抜きゲームをし、生徒たちは体を使ってSDGsの目標を知り、世界が今どのような状況に直面し、自分たちには何ができるのか考えました。

第二回 「新聞記事 de SDGs」

「新聞記事 de SDGs」では、SDGsの観点で新聞記事を読みこみ、問題解決に向けてどのようなことができるかグループディスカッションをしました。7年生と8年生は「農業就労人口と女性の社会進出」について、9年生と10年生は「コンビニの廃棄物」についての新聞記事を読みました。また、それぞれの新聞記事を読んで気づいたことをSDGsの17の目標と関連させて付箋にまとめ、各グループで共有しました。最後に、それぞれの気づいたSDGsの観点から、問題解決に向けて自分たちができることや今後の日本社会の課題について議論しました。

評価

ワークショップを行う前は、国際社会問題に興味を持っている生徒が多いにも関わらず、SDGsの具体的な内容を半数以上の生徒が知りませんでした。SDGsのワークショップは生徒たちがSDGsについて理解を深めるだけでなく、国際社会で起こっている様々な問題と自分を関連付ける貴重な機会になったと思います。振り返りシートの中では、「国際社会について知っているつもりでいたが、自分がいかに無知であるか痛感した」や「自分にできることをもう一度しっかり考えたい」など声が多く、以前よりも国際社会問題に関心を持つ生徒が増えたと思います。また、SDGsの目標を達成するために、家庭内のゴミを減らしたり、節電を心がけたり、自分たちにできること一歩ずつ行

動したいと振り返りシートを書いた生徒もおり、生徒たちも問題解決に向けて何か貢献したいという強い気持ちを持っているのだと感じました。今後は学校内での様々な活動を通して、生徒たちが社会に貢献できる場をできるだけ多く提供できるようにしていきたいと思います。

4 教科としての「環境」(Environmental Science)

7年生

The Grade 7 Science students have an introductory study of the science of water and the study of Ecology. This is then expanded into a consideration of these subjects in Environmental Science. The main chemical properties of water are discussed in relation to the Water Cycle, and how that affects the human, animal and plant environment on land and the effect on life, in oceans and waterways. The students study different causes of water pollution and the effect that this can have on agriculture and the natural environment. Together with this, they study minerals and resources. The students consider the atmosphere and the issues associated with global warming, connected to climate change. All of these aspects are considered with an underlying relationship and connection to the WHO/UNESCO Education for Sustainable Development guidelines.

8年生

29 hours were spent on Environmental classes in 2019-2020.

Environmental classes focused on different topics of environment and tried to see how these impacted students on a **daily life** basis. In order to understand **how environmental factors impact humans**, a “think globally, act locally” approach was developed.

At first **Earth systems** were studied and examples of how they relate to daily life for students. **Atmosphere, geosphere, hydrosphere and biosphere** were studied to understand how dynamic systems interact together and influence students here in Japan. For example : earthquakes, typhoons, global warming, water precipitations and floods. All of these were approached with concrete **examples in Japan and our city of Fukuoka**.

Secondly, **ecology** was tackled with a **study of habitat in the English Garden** next to the school. The importance of relationships between living things and non-living things was studied and students were made aware of the **importance of inter-dependence**.

Then 2 big study-cases with research and essays were done. One was on **global warming** and the other on **wind farm**.

To finish, a **multi-task essay** was produced to address students` thoughts and mastery of the various points studied in the year. They had to produce a short essay, justify their knowledge, give examples of actions they are taking and answer few ecological questions.

Students

Students did good work in the classroom and in the field collecting data. Data analysis was a bit harder for them and understanding how different factors interact together as well. Another difficult point for students in using creative thinking or thinking outside the box.

To support better learning for students next year, an approach where students are given more independence after being shown clear examples will be used. Students will be able to understand what is expected and try to reproduce it.

Teacher

I feel environmental science is a great class that is very important for students. I realized that most students are familiar with the big events on Earth (global warming, pollution) but lack knowledge of how these relate to them and to other issues (for example global warming impacts politics, economy, farming...). I also wish students would show more eagerness to study the topic, I feel a lot of news on the subject is negative and students would rather focus on the positive side of things.

9 年生

1) .経過

本授業では環境問題がいかに複雑で解決困難な問題なのかを学習し、多角的に見なければならぬ課題であることを知ることを企図して授業を計画しました。

授業ではまず水俣病、オゾンホールに関する講義と映画『エリン・ブロコビッチ』（ヒンクリー地下水汚染訴訟を元にした映画）の鑑賞を通して環境問題と企業利益の衝突、科学が環境への影響を予測することの限界について学習し、環境問題が理想論で解決できる単純なものではなく、経済や関係者の相反する思惑まで含めて考えなければならぬ複雑な問題であることを学びました。また地球温暖化に関する最近の研究の紹介を通して環境問題を科学的に解決する試みがどのように行われ、どのような困難に直面しているのかを知ることで、環境問題の解決がいかに困難で時間を要するものなのかを学習しました。

学習の最後に生徒は各自 1 つの環境問題について現在行われている対策を一つ取り上げ、科学的、経済的な観点から調べて自分なりに数値を用いて評価し、レポートを作成しました。

2) .評価

テーマが生徒の能力に比して高過ぎ、レポート課題では多角的に評価するという目標を達成できた生徒は多くはいませんでした。また事前にレポートの書き方も指導しましたが、指導した形式に準拠した形では書けなかった生徒も少なからず存在し、他校の生徒よりレポートを書く機会が多い割にスキルが身につけていない実態が浮き彫りになりました。

一方で環境問題が複雑な問題であり、国際社会が問題解決に向けて全く努力をしていないかのようにも見えるが、実際には解決に向けて様々な試みが行われていること。しかしながらどの方法も課題を孕んでおり、完成には時間を要するものであるということは理解できたようでした。

5 英語イマージョン教育について

本校は、小学部より続く英語イマージョン教育によって、英語をツールとして世界で活躍できる人材の育成に努めている。英語で教科を学び、日本文化を深く理解することは、国際的リーダーの資質として重要であり、国際社会での活躍を期待されている。

11 年生（高 2）、12 年生（高 3）では国際バカロレア・ディプロマプログラムを実施し、アクティブラーニング・探求学習を通じて、国際的視野、論理的思考、発表能力の向上を目指している。

実績と成果

英語能力を測る試験としては、2016年度より全校生徒に IELTS（アカデミックモジュール）を実施し、12年生（高3）では平均 6.5 から 7.0 を取得している。また国際バカロレア・ディプロマプログラムでは 2015 年度卒業生の第 1 期生より昨年度（2019 年度）卒業の 5 期生に至るまで、対象生徒全員がディプロマを取得している。大学進学においても、IB を利用し、国内大学はもとより、アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなどの大学に合格者を出している。

自己評価

5 期生までの卒業生を出し、英語能力の育成に関して、それなりの成果を挙げていると思われるが、やはり年度によってのバラツキは否めない。一人一人の環境、能力に応じた指導方法の開発が必要である。国際バカロレア・ディプロマプログラムにおいては、その学習において、生徒一人一人が課題に向き合い、計画的に、問題を解決していく能力が求められる。IB の学習者像に合わせ、その人間育成にも力を注いでいきたい。